オニバスは、生育に周期的な盛衰があるといわれていますが、佐潟における過去の調査報告を整理すると、表1のようになります。78年以降は、1年ごとの盛衰を繰り返しています。これらの年について、生育期間中の気温・日射量・降水量について検討してみましたが、各年ともに大きな差は認められず、また近隣のオニバス生育地の瓢湖では、佐潟と逆に、81年には生育が良く82年には抜け流れの現象が認められたことからも、オニバスの生育地固有の要因か、または、種固有の内因によるものと思われます。

次に種子の形態に興味のある地理的変異が認められたので付記します。図3に、種子の長径の頻度分布を示します。オニバス種子の形態の地方変異が著しいことは岡田（1930）によって報告されていましたが、今回調査した佐潟と瓢湖のものは、生育地が近いにもかかわらず、異なった形態をしており、佐潟の種子はむしろ静岡県中新井池のものに近い長径を示しました。しかし、短径／長径比は、佐潟：0.81± 0.046、中新井池：1.23± 0.13 となり明らかに形態が違っていました。佐潟の80年以前の種子と81年の種子には差は認められず、生産される種子の大きさと成長とは関係ないと思われます。このように、種子は生育地固有の形態を持つと考えられ、オニバスの進化を考える上で興味深いことと思われます。

81年の調査は、生育の悪い年の調査のため北限近くの標準的なオニバスの生活環をとらえることは出来ませんでしたので、さらに調査を継続して、盛衰や北限の問題を考えていこうと思っています。

**表1. 佐潟におけるオニバスの盛衰**

（例年認められる泥帯において、＋は大繁茂を示し、－は、ほとんど認められないことを示す。）

| 年 | 盛　衰 | （観察者） |
|---|---|---|
| 1981 | － | 著者 |
| 1980 | ＋ | 著者 |
| 1979 | － | 中村・東出（1980） |
| 1978 | ＋ | 富田・大高（1979） |
| 1977 | ＋ | 尾崎（1978） |
| 1976 | ＋ | 尾崎（1978） |
| 1975 | － | 尾崎（1978） |
| 1974 | ＋ | 尾崎（1975） |

## ホテイアオイ研究会の発足

水草研究会の弟分に当たるホテイアオイ研究会が昨年の7月3日に誕生しました。設立総会にはホテイアオイに興味を持たれる約70名が全国各地から参集されました。現在、普通会員は115名で、11月にはニュースレターの創刊号を発行し、順調に会の運営を進めています。

ホテイアオイ研究会を構成している会員は、何かの機会にホテイアオイに出会い興味を持たれたか、あるいは実際にこの植物をとり扱っておられる方々です。この水草研究会会員の方々にも設立時に多大の御支援を頂き、また会員にもなって頂いています。今回、この紙面をお借りして、その御礼を申し上げると共に、いまだ発足を御存知ない会員の皆様に御紹介致し、御入会を希望する次第です。

ホテイアオイ研究会は、ホテイアオイに関する情報交換、知識の普及ならびに会員相互の親睦をはかる目的で設立されましたが、具体的な活動としては、水草研究会と同様、全国集会や特別講演会の開催、ニュースレターの発行（年2回）などを企画しています。国内だけでなく国外との連けいも積極的に進めていますが、内容の充実した、しかも気軽に集える会にしたいと考えています。なお、年会費は2000円です。この研究会に御関心をもたれる方は下記に御連絡下さい。ニュースレター創刊号も少し残っております。　（文責：渉外幹事　沖陽子）

事務局　〒606　京都市左京区北白川追分町　京都大学農学部雑草学研究室内
ホテイアオイ研究会（会長：植木邦和）
TEL　075－751－2111（内線6062）　振替　京都　9－25146